



爆破のスイッチを入れるとする前田鐵相
と鐵道省の幹部。

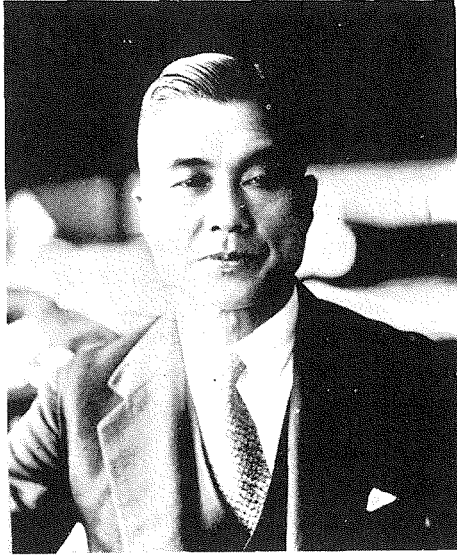
關門海底鐵道の試掘坑貫通

鐵道省の關門海底隧道は多年の懸案を解決して、先に釘宮所長の下に愈々工事を進める事となり、昭和11年9月慎重なる施行準備を以て、本坑より別に先づ試掘坑の掘鑿に着手したのである。而して2年8ヶ月間の不安と緊張の工事は遂に過ぎて爰に目出度く4月19日を以て試掘坑は貫通したのである。

工事に冷淡な全國の新聞も、此日のみは夕刊に朝刊に筆を盡して大々的に報導した。東京の鐵道省に於ては

この日午前9時半前田鐵相、喜安次官、阿曾沼工務局長、堀越建設局長、山田運輸局

長、鈴木監督局長等參集、三浦改良課長は下關改良事務所の大川技師と連絡をとり、9時50分準備完了の電話に接し、緊張のうちに同59分三浦課長から「1分間後に大臣が釦を押します」と最後の打合せをおこなひ、斯くて正10時前田鐵相は起立して机上の押釦を指先に力をこめてぐつと押した。下關側からは直ちに「只今爆破致しました」との通牒に続き、同10時5分釘宮下關改良事務所長から「無事貫通致しました高さ2米幅2米50」連絡の三浦課長が「お目出度うございました」といふ聲も緊張に満ち、



下關改良事務所長 釘 宮 磐氏

この瞬間思はず一同萬歳を叫び、用意の赤葡萄酒の祝杯を舉げこの世紀の偉業の成功を祝し合つた。

この試掘坑貫通により本隧道掘鑿の見通しも明確となり、いよ々々昭和16年4月には本土九州を鐵路に繋ぐ關門隧道の完成を見る豫定となつた。

今回の試掘坑の貫通は、下關改良事務所關係各員の用意周到なる技術的に協力一致の賜物であつて、同時に我國工事技術の進歩を如實に發揮したものである。

然し乍ら海底隧道としては我國最初の工事であり、且つ潮流の急なる、然も船船の航行最も頻繁なる地點なる丈に、萬一斷層の影響等ありたる場合には工事中途に如何なる變事を生ぜんも計り難く、到底丹那隧道工事中の

崩壞等と比較にならぬものである事は想像に難くないのである。

爰に於て我鐵道省は我國最高の工事技術をかけて之が萬全を期する事となつたのであるが、如何に用意周到なる釘宮所長と雖も、之は悲壯なる決心を以て其任に就た事であらう而して今回の喜は釘宮氏に取つて又悲壯な喜であらう。即ち次いで完成を期すべき本隧道工事の大なる責任を思ふとき、また感慨無量のものがある事と思はれる。我等は其前途の多幸を祈つて止まないものである。

因に鐵道より稍東の海底に試掘調査坑を掘鑿しつゝありし内務省の國道自動車隧道も、愈その調査坑を4月26日午前10時貫通したので、國道用本隧道の本格的大工事も近く着手せらるゝ豫定である。